



年間テーマ ～ 平和を目指してともに歩もう ～



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪大司教区  
社会活動センター・シナピス  
TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203  
Email/sinapis@osaka.catholic.jp  
ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

今月のテーマ

平和憲法を実現しよう

タイトル:

「雨上がり、だいすきなものにかこまれて」

作: セナトーレ めぐみさん (当時4歳)

第1回シナピス主催絵画コンテスト

ピース賞受賞作品

クラレチアン宣教会 竹延真治

「大阪の凋落(ちょうらく)ぶりは“あまりにもひどすぎる!”と大阪で生まれ育ったわたしは自分に向かって言う。わたしの少年時代には政治・経済・文化のあらゆる面で大阪は万年二位ではあるものの、まだ東京と競い合う実力を兼ね備えていた。今の大阪は巨大な一地方都市に過ぎない。カジノや万博を誘致したこと自体がもうバンザイ(大阪弁で“お手上げ”=破産)状態であることを全国にPRしているようなものではないか。恥ずかしい。

待てよ、お笑いの世界なら大阪がまだ一番のはずだ。思い直して、小学生のときによく見た新喜劇にチャンネルを合わせてみると、人の体の特徴を馬鹿にしたギャグばかりが目につく。斜(はず)から見て、自分を笑い飛ばすのは良いが、他人を小ばかにするのは本来の大阪のお笑いではないだろう。

落ち込んでいた時に紹介されたのがこの人についてのビデオ。幣原喜重郎、1872年9月13日に大阪府の門真(かどま)で生まれた戦後二代目の総理大臣。優れた外交官、のちには外務大臣として多数の国々と交わり、ワシントン・ロンドン両軍縮会議では平和協調を希求し、軍部の中国侵略に反対した。“軟弱外交”とのそしりを受け、政界を退くが、敗戦後突然天皇により抜擢される。二度と戦争の悲惨さ、苦しみを人々が味わうことがないようにと考案された憲法9条は、幣原がマッカーサーとの秘密会談の中で生まれたものだったことが明らかになってきた。

この経緯を映像にしたDVD「してはら—かどま市が生んだ日本の総理—」(2019年度文部科学省選定作品)をぜひごらんになっていただきたい。大阪人の誇りを取り戻すことができると思う。入手方法についてのお問い合わせは、枚方教会の竹延(たけのぶ)神父まで。

それはともあれ、東京に勝つことでしか自分を保つことのできないこのわたしは、実は、最も憲法九条の精神から遠い人間なのかも……。



## ニュースレター 目次

- 1 巻頭言
- 2 ちょっと、聞いて!
- 3 障がい者委員会より
- 5 時報5月号より
- 7 みんな 集まれ、平和を求めるひと!  
～今こそ大切な平和憲法～
- 8 映画『東京クルド』上映会を終えて
- 10 ふくしま
- 12 ボランティアさんにきいてみた
- 13 祈りの集い報告
- 14 シナピスホームだより
- 15 みんなのけいじばん
- 16 シナピスの風
- 17 あとがき

## チラシ・ご案内

- ・シナピスの風
- ・5月の祈り
- ・わすれないあきらめないカレンダー
- ・障がい者差別のない公正な判断を求める署名
- ・タリタクム日本オンラインセミナー
- ・カトリック中央協議会 HIV/AIDS デスク勉強会
- ・在日コリアン人権フォーラム 2023
- ・ピース9の会
- ・書籍・リーフレットの紹介

## 年間テーマ

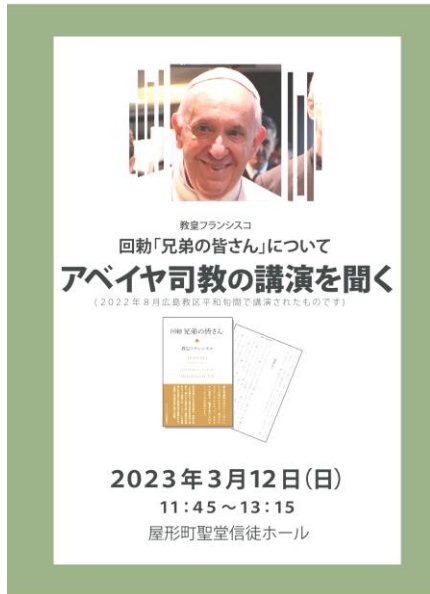
～平和を目指してともに歩もう～

身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。剣を取る者は皆、剣で滅びる」(マタイ 26:52)と言われたイエスの生き方に倣い、暴力に打ち勝つ強い信念をもち、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまといっしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

# ちょっと 聞いて

## 和歌山紀北教会 社会活動委員会学習会

和歌山紀北教会 今福聖堂 ゆざきなおこ 湯崎直子



私たちは、学習会で回勅「兄弟の皆さん」を分かり易く伝えたいと思っていました。そんな時 2022年の広島教区平和旬間行事で「兄弟の皆さん」についてアベイヤ司教の講話がYouTube配信されているのを知って皆で視聴しました。とても分かり易く穏やかに話しているのに説得力があり何より教皇様の思いを伝えるものでした。

この講話を聞いてもらうことを決めると同時に時報に掲載されていた「キーワードで読み解く 回勅『兄弟の皆さん』」を読み深めること、グループで本を読んで分かち合うなどを決めて進めました。バチカンからは要約が出ているので合わせて資料とし、3月12日(日)の午後 30人ほどが集まって視聴しました。

### 第1章 現在の闇について

差別や貧困や切り捨ての文化など歪みの現状に目を向けます。司教は、「サマリア人は社会問題を乗り越えていく姿勢を示している。誰が隣人ですかと問うのではなく困っている人の隣人になってください、そして『親切さの奇跡』とは、他者に注意を向け、微笑みかけ、話を聞く時間を創るそんな優しい人が現れる奇跡です、『闇の中の星』です」と言われました。

### 第5章 最良の政治について

「司教は教会の指導者たちの中には政治にかかわるのは良くないという方がいます。しかし、政治にかかわるのは命の尊厳、人間の尊厳を中心に置くからです」と言われました。

### 第6・7章 出会い、対話、和解 によって兄弟愛と社会的友愛が生まれる

「対話は基本的真理(命の尊厳が大切にされる現実)の上に成り立ちます」と言われました。日本では今も死刑制度がありますし、私は「経口中絶薬承認に反対する署名用紙」に署名できず、今も気持ちは変わりませんが、そんな自分と向き合うたび心の痛みや多少の苦しさも感じます。

また高齢者問題について深めたグループは「介護ビジネスが『充実』するなか、家族関係が希薄になっていないか、介護施設の専門職の人材不足や現場の課題も山積み、これから迎える高齢社会をどのように受け入れるのか。教皇は虐げられている人の観点から心をごらんになるんですよ」とも言われました。

視聴の後の感想では、「コロナ禍で人と人とのつながりが希薄になったと落胆する誘惑に陥ってしまいそうになる。」「目の前にいる人をお互いに大切にしようようにと一人一人に託されている使命や役割があると思う」「政治にかかわるのは命の尊厳、人間の尊厳を中心に置くからですと言われたのはとても心強く感じた。また今の政治には心を痛めることが多い、政治に弱者への優しさがほしい。」「キリスト者は効果がみえなくてもあきらめることがありえない！イエス様が私たちの歩みを支えてくださると言われた司教の言葉に大きな力と励ましをもらった」などの意見が出ました。

矛盾だらけの自分と向き合いながら、神様から与えられた「人の苦しみをみて痛む心」をもっと磨いて、苦しみに共感して行動できる人になりたいと思いました。



## ともにあゆむミサ・祈りの分かち合い

病者・障がい者とともに歩むミサ 2022」の共同祈願より  
カトリック・スカウトと神戸ダルクヴィレッジ

いしい のぞみ  
石井 望

昨年度の「病者・障がい者とともに歩むミサ（以下くともミサ）」の共同祈願は非公開で行われました。前もっていただいた共同祈願文の中で抜粋して唱えられた祈願文の全文をご紹介します。

### カトリック・スカウトの祈り：

わたしたちスカウトの生き方は、2023年にバチカンで行われるシノドス（世界代表司教会議）のテーマ「ともに歩む」の実践そのものだと思います。

来年こそは、このシノドスの心で病者・障がい者の皆様とともに心の底から大きな声で聖歌をうたい、同じ空間でともにミサに集うことができますように。

2014年に始まった大阪教区「ともミサ」は、前田大司教の日程の都合上、大阪教区カトリック・スカウトのご好意で、創立50周年行事と合同で神戸で行われました。その時以来、「ともミサ」には最寄り駅からの案内や会場設定、ミサ奉仕など様々な協力・奉仕をしてくださり、「ともに歩んでくださいました。

### 薬物依存の立場からの祈り：

薬物依存症という障害を持つ私たちの仲間たちが、依存症から解放されて、生きることへの喜びを感じることができるようになるために

助けを求める声を出せる場所がみつき、そして多くの人々の愛を受け取れるような支援の手が届きますように

そして、助けを求める場所を見つけられずに死んでいく人がひとりでもなくなる社会になりますように。

依存症者の孤立の涙が、神のもとに必ず届きますように。そして回復が約束されたものが、この先にまだ苦しむ薬物依存症者を助けていく喜びを手にするすることができますように。

たとえ、私たちが責められるような事柄が起きても、感謝の気持ちを忘れず目の前の仲間たちと支えあうことができますように。

障がい者委員会の学習会に神戸ダルク（薬物依存症者のリハビリ施設）代表のUさんが来てくださいました。2019年の「ともミサ」では神戸ダルクヴィレッジへの理解・協力を呼びかけてくださり、「ともミサ」にも協力いただいています。（シナピス・ニュース掲載の関連記事 No.51,52）

今年の「ともミサ」は9月23日（土曜日・祝日）午後2：00から玉造カテドラル大聖堂で行われます。またミサの後で参加者の交流会（リモート参加も可）も予定しています。



# 精神・発達症（障害）者自助グループ「オリーブの集い」

オリーブの集い事務局 よしかわ やすお 吉川 康夫

カトリック大阪大司教区障がい者委員会枠で、毎月シナピスニュースに障害について、当事者としての思いを載せていただいていますこと、感謝いたします。それらの記事を読んでオリーブの集いの仲間から、精神障害についての記事も載せてほしいとの要望がありました。今月号は、「オリーブの集い」についての紹介をさせていただきたいと思います。

精神・発達症（障害）者自助グループ「オリーブの集い」は、2003年の秋にできました。現在は、毎月第3日曜日午後2時から4時、姫里集会所に集まって分かち合いしています。

遅刻、ドタキャン、突然来られるのも大歓迎です。お約束は、守秘義務と分かち合いです。故岡田大司教さんの「分かち合いの進め方」を参考にしています。

◎「安心」が、分かち合いが成り立つための前提条件です。参加者が安心して分かち合いをすることができるために、次の点に注意します。

## 1. 集いの場で聞いたことを他の場で話さない

話されたことが、他の場所で他の人に伝わるならば、だれも安心して話すことはできません。「分かち合い」で聞いたことは一人一人の胸の中に収めることを約束します。言った本人に対しても、別の場で「あの時あなたはこう言いましたけれど…」というような言い方はすべきではありません。秘密を守ることができないグループは簡単に崩壊してしまいます。

## 2. 支配するのは神の霊

人が集まるところに「人を支配したい」という誘惑が生まれます。「教えたい」「コントロールしたい」「自分が一番になりたい」その誘惑に打ち勝つことが必要です。限られた人だけが長時間話すのも禁物です。司会者やグループの代表は、奉仕者であるという意識を徹底しなければなりません。話が途切れたとき、沈黙を埋めようとして話す必要もありません。その時は、神が沈黙のうちにわたしたちに語っていることを聞けばよいのです。なお、終了時間を守ることも大切です。

集いは、だれか人間が支配する場ではなく、すべての参加者が一人一人の心に働きかける聖霊の導きに従おうとする場なのです。

## 3. 相手を批判しない、議論しない

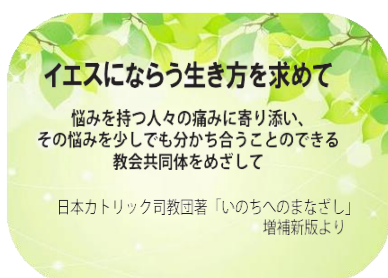
自分の発言が人から批判されると、ある場合には非常に傷つき、もう二度と話すまい、と思うようになります。安心のためには「批判しない」という原則です。大切なのは、人の言葉に耳を傾け、人の思いをそのまま受け取ろうとすることです。わたしたちは議論するために集まっているのではなく、霊的に成長するために集まっているのです。

登録メンバーは、30人ほどですが、集会所に集まる人は7～8人です。司会者を決め、この1ヶ月の“嬉しかったこと”、“悲しかったこと”、“良かったこと”、“辛かったこと”、“心に残ったこと”などを順に話し合います。発言をしなくて、聴くだけでもOKです。

次号にメンバーの自分史が載ります。お楽しみに！

問い合わせ先（オリーブの集い事務局）メールアドレス  
yassan.yoshikawa@nifty.com





## みんな 集まれ、平和を求めるひと！ ～今こそ大切な平和憲法～

2月25日(土)サクラ ファミリア(大阪梅田教会)3階聖堂に於いて、松浦 悟郎司教(カトリック名古屋教区)を講師にお招きして、標記の講演会・学習会を実施しました。

恒久平和を願って戦争をしない、軍隊を持たないことを謳(うた)った「平和憲法」を持つ日本が、いつの間にか「有事」のためという口実で「9条さえなくせば」と、戦争ができる国になりつつあると危機感をもちます。

今や「世界の平和のための貴重な宝」である「憲法9条」を守りたいと、120余人が集まってくださいました。カトリック関係者だけではなく、プロテスタント教会の方、市民団体の方が多く参加されたことに大きな喜びを感じ、力をいただきました。

「戦争を始めると終わりが見えない」ことは、ウクライナの惨状を見てもわかります。「絶対に戦争を起こしてはいけない」と考えるのか、「米軍と一緒に日本も戦争ができる国にしたい」のかを考えて、子どもや孫の世代にも真剣に伝える責任を感じました。

憲法9条の大切さを身近な人に伝え、賛同者を増やし、いつか憲法改正の国民投票が実施される時には、「改正」反対！の意思表示をしましょうと約束して解散しました。

(ピース9の会 大阪の集い実行委員会・ピース9の会 堺グループ)

### I 部 (映像)

\* 「武器なき戦い アフガンを歩く日本国憲法」 中村哲医師

\* 朗読動画 「井上ひさしの子どもに伝える日本国憲法」

### II 部 (講演)

松浦 悟郎司教

(意見交換) ゴロー司教と平和を語ろう！



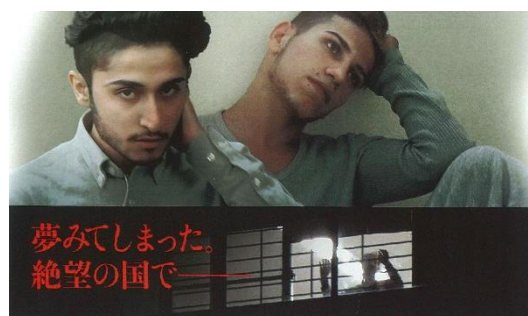
## 映画『東京クルド』上映会を終えて

3月4日(土)、カトリック夙川教会のブスケホールに於いて、『東京クルド』上映会を開催しました。参加者は 95 名。

ラマザンとオザンは、小学生の頃、故郷での迫害を逃れ家族と「平和な日本」に助けを求めたトルコ国籍のクルド人。しかし、住民票も健康保険もなく、働くことは禁じられ、いつ入管に収容されるかわからない非人道的な毎日を送る。

専門学校を何度受験しても「仮放免」を理由に入学を拒否されるラマザン。将来が見えない毎日に、オザンは「自分は虫より価値がない」と口にする。そんな時、この映画の日向監督と出会い、「仮放免者の窮状を訴えたい」と、入管に捕まる覚悟でこの映画に出演した。

「平和」とは戦争がない状態だけではない。教育や労働の機会、夢や希望を奪われた状況は「平和」ではない。彼らの希望を奪っているのは、誰か？この映画を観た私たちの行動が問われている。



上映終了後、「在留特別許可」を求める若者2人の思いを聴いた。シナピスのビスカルドさんの「彼らに『頑張ります!』と言わせる国ではいけない。彼らは十分すぎる程頑張っています。頑張らないといけないのは私たちなのです」という言葉が心に響いた。

\*トルコ政府からの支援が届かない「クルド人居住地への救援募金」37,000円は「日本クルド文化協会」に送金させていただきます。また、二人のペルー国籍の大学生「Mさん、Sさんへの応援募金」も彼らの学費支援として大切に使用させていただきます。ご来場の皆さまの温かいご協力に感謝いたします。(在留特別許可を求める子どもと歩む会 めくもり)

第10回「いのちの光 3.15 フクシマ」主催

「フクシマが背負ってきたもの  
伝えつづけるもの」に参加して



3月15日(水)から18日(土)にかけて仙台教区<sup>もとでらこうじ</sup>の原町、そして元寺小路教会で開催されるミサと講演会に出席するため、福島県南相馬市と宮城県仙台市を訪ねた。2012年に発足した会で、毎年福島第一原発の爆発事故が起きた3月15日に「いのち」に向きあい、ともに祈り現状を知ろうと、実行委員会を立ち上げ活動されている。

講演会では震災前まで浪江町<sup>なみえまち</sup>の請戸漁港<sup>うけど</sup>で漁師をされていた志賀勝明<sup>しがかつあき</sup>さんにお話を伺った。

「地震、原発事故当時避難を体験し今になってようやく受け止めて冷静に考えるようになってきた」と話しはじめられた志賀さんは、高校を卒業してから震災まで漁師として生計を立ててこられた。しかし、津波で船は壊された上、原発事故によってやむを得ず漁師を断念。避難先で農業をはじめられた。「海と山を経験し身をもって知ったことは、山と海はつながっているということなんだよ。19年の台風の影響で、除染されていない山に大量の雨が降り注ぎ、削り取られた土砂が川から海へと流れ込んだ。泥は重く沈む。河口付近の放射線量が心配だ。しかし請戸の河口付近の調査は未だ行われていない。なんとか調査してほしいんだよ。俺は専門家でもなんでもねえ。だからわかんねえんだよ。本当のことが知りてえんだ」語気を強め何度も言われた。一方、燃料デブリと呼ばれる放射能を帯びた物質を取り出す処理のために冷却している「汚染水」を、政府と東電は海へ放出する準備を進めている。国境はあっても海は世界と繋がっている。志賀さんは「孫たちの将来はどうなるんだ」と、脅かされているいのちを思い憂えておられた。

翌日、浪江町請戸<sup>ふたばまち</sup>、双葉町周辺を志賀さんが車で案内してくださった。福島第一原発から10キロ圏内。震災まで請戸漁港は大小100隻ほどの漁船で賑わっていた。今はわずか28隻ほどが試験操業しているそうだ。真新しい倉庫が立ち並び綺麗に舗装されたアスファルトの上で静かに車を止めて「ここは船溜まりだった。俺の船はここにいつも止めていた」と思い詰めた表情で言われた。そこは埋め立てられ当時の様子は跡形もない。そして小さくつぶやくようにこう言われた。「もう、戻れねえよ」



ここにいつも止めていた

(シナピス 原慶子)



すべての人の平和を願い  
戦争をしない 軍隊を持たない  
この憲法9条を世界の宝に

## みんな 集まれ、平和を求めるひと！ ～今こそ大切な平和憲法～

ピース9の会 大阪の集い実行委員会

2年4か月ぶりの「大阪の集い」に、今や「世界の宝である憲法9条」を守りたいと、120余名が集まってくださいました。カトリック関係者だけではなく、プロテスタント教会の方や市民団体の方が多く参加されたことに、大きな力をいただきました。

「戦争への備えは、戦争の始まり。武器を持てば、戦争をしたくなる」「憲法9条のおかげで、日本人だと言えれば命を救われたことが何度もある。自衛隊が派遣された時から、これまでの信頼関係が崩れて危険を感じるようになった。飢餓状態の解消こそが大切だった」と語られた中村哲医師の言葉が心に残りました。



「心をつくして話し合い、力を合わせるなら、かならず戦(いくさ)はいらなくなる。

国会へ送った人へ二度と戦(いくさ)をしないようにとしっかりとことづけることにした」「どんなもめごとが起こっても これまでのように、軍隊や武器の力で かたづけてしまうやり方は選ばない」と、「日本国憲法」は話し合いでもめごとを解決すると誓っていることを確認しました。

松浦司教のお話で、国連の事務次官だった新渡戸稲造氏の「新渡戸裁定」を知りました。隣国との間に領土問題を抱えている日本が、絶対に戦争に突き進むことがないように、「歴史上の成功例」を参考にしてほしいと思いました。

また、「戦争が橋を壊すのではなく、橋が壊れている所に戦争が始まる」(教皇フランシスコ)と「戦争によって憎しみが生まれ、壁ができてしまう」という言葉が心に残りました。

戦争を始めると終わりが見えないことは、ウクライナの惨状を見てもわかります。

「絶対に戦争を起こしてはいけない」と考えるのか、「米軍と一緒に日本も戦争ができる国にしたい」のかを考え、子どもや孫の世代にも伝えていく責任を感じました。戦争ができる国になれば、真っ先に戦地に送られるのは若者なのです。彼らが人を殺したり、殺されることは絶対にあってはなりません！ 憲法9条の大切さを身近な人に伝え、賛同者を増やし、「憲法改正」の国民投票が実施される時には、“「改正」反対！”の意思表示をすることを約束して解散しました。

主催：ピース9の会 大阪の集い実行委員会 共催：ピース9の会 堺グループ  
後援：カトリック大阪大司教区 社会活動センター・シナピス



# 映画「東京クルド」上映会を終えて

主催:在留特別許可を求める子どもと歩む会 めくもり

I部:映画「東京クルド」(日向 史有監督)

II部:分かち合い「外国ルーツの若者を交えて  
ビスカルド篤子さんと共に」

この映画に登場する二人の青年ラマザン(19歳)とオザン(18歳)は、小学生の頃、故郷での迫害を逃れて家族とともに日本に救いを求めてやってきたトルコ国籍のクルド人。

クルド人は、トルコ、イラン、イラク、シリアに広がる山岳部に住み「国を持たない最大の民族」と呼ばれ、各国で少数民族として迫害を受けてきた。

「平和で安全な国」と信じて日本に助けを求めてきた彼らに、入管は非人道的・差別的な対応をし「難民認定」することはなかった。「仮放免」状態の彼らに住民票はなく、働くことも禁じられ、いつ入管に収容されるかわからない恐怖を感じながら毎日を送っている。

ラマザンは、通訳を目指して語学専門学校を何度受験しても「仮放免」を理由に入学を拒否される。

人生の半分を日本で過ごすオザンの父は入管に2度収容され、日本生まれの子どもたちは、無国籍。オザンも収監される危険を冒しながら、生活のため解体作業に従事している。子どもの時からいじめや差別に遭い、能力を活かす仕事もできず将来が見えない毎日に、「努力しても無駄だ!」と、過激派組織と闘うクルド人にあこがれ、「殺されたら自由になれる」とまで思うようになる。

そんな時、この映画の日向監督と出会い、「仮放免に置かれた者の窮状を訴えることができれば、入管に捕まってもいい」と覚悟をしてこの映画に出演した。

「平和は戦争がないという意味だけではない。勉強することができない、働くことができないことも平和ではない」と彼らに思わせる日本。彼らの希望を奪っているのは、日本の政治や入管法だけなのだろうか?知らずに過ごしてきた私たちに責任はないのだろうか?この映画を観て、現実を知った私たちの行動が問われている。

II部は、「在留特別許可」を求める外国ルーツの若者2人とビスカルド篤子さんを交えての分かち合いが行われた。

\*Sさん(大学1回生)の話:小学生の時、働いていたことが見つかった父が捕まって、1年間入管に入れられ、その後、家族に何も知らさず、身一つでペルーに強制送還され、それ以来会えてない。意欲を失いながらも、親身になって支えてくれた先生のおかげで高校に入学できた。しかし、高校になって、家の事情を広められていじめられたが、助けてくれた先生を思い出し、困っている子を支える教師になりたいと教育学部で頑張っている。

\*Mさん(大学3回生)の話:就活しても、就職できない現実を前に、「在留許可が出なかったらどうしよう」と心配し、苦しい。成長するにつれて苦しみが増える。未来が良くなるように願う。

\*ビスカルド篤子さんの話:日本生まれ、日本育ちの彼らは、生まれた時から国家にその存在を否定されている。OECD(経済協力開発機構)加盟38か国の中で、未成年の子どもに「帰れ!」という国は日本だけ。彼らは充分頑張っているのに、彼らに「頑張ります!」とか、「支援ありがとうございます!」と言わせる国はいけない。彼らに「頑張ってね!」と言わないでほしい。彼らが、人間らしい生活ができるように頑張らないといけないのは、私たちなのだから!国連の人権に合わせた国にしていきたい。



映画「東京クルド」公式サイトより

今が正念場！

## 入管法改定法案を何としても廃案に！！！！

審議中の入管法「改正」法案に反対する声は日増しに高まっています。  
この法案の何が問題なのか、なぜ、国連までが法案に懸念を表明するのか、今こそしっかり学んで考えて、行動したいです。  
私たちは大海の一滴に過ぎないけれど、大海は一滴からなる！

☆立憲民主党に「修正ではなく廃案に」と要請する  
電話 03-3508-7005・ファックス 03-3508-3805  
↓↓立憲民主党への意見メールは下記へ↓↓  
<https://cdp-japan.jp/form/contact>



☆国連の特別報告者、恣意的拘禁作業部会から、  
入管法改定案に関する懸念表明と対話を求める共同書簡が出されました。



[https://www.tokyo-np.co.jp/article/244694?fbclid=IwAR3oHhkL0ERbA-EeT84KB\\_g7RPFzI2t892eYiKl3pab7uZ0c7V-1h3X7SnM](https://www.tokyo-np.co.jp/article/244694?fbclid=IwAR3oHhkL0ERbA-EeT84KB_g7RPFzI2t892eYiKl3pab7uZ0c7V-1h3X7SnM)

☆全国各地で、入管法改定法案に反対する行動が広がっています。  
入管法改定案について「人権の保障が担保されない」研究者ら 425 人が反対声明

[https://www.tokyo-np.co.jp/article/244694?fbclid=IwAR3oHhkL0ERbA-EeT84KB\\_g7RPFzI2t892eYiKl3pab7uZ0c7V-1h3X7SnM](https://www.tokyo-np.co.jp/article/244694?fbclid=IwAR3oHhkL0ERbA-EeT84KB_g7RPFzI2t892eYiKl3pab7uZ0c7V-1h3X7SnM)



☆入管法「改悪」法案を撤廃へ、国会前 2000 人が反対集会



<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/448722?fbclid=IwAR1Ukm0ykc7cfqRMt-bfp6u0mcUQID4L8mPV4bMq-ZEptnxlfDUJaFrLRcs>

☆入管法政府案「立法事実」への疑問

<https://d4p.world/news/20708/>



### 3.15～福島を訪ねて 前編

## 憲法はまだ10分の1も生かされていない

シナピス はらけいこ 原慶子

志賀勝明さんは、鈴木安蔵すずきやすぞうの生家おだかく（南相馬市小高区）の保存活動もされていて、案内してくださった。憲法学者鈴木安蔵は、第二次世界大戦後、「憲法草案要項」を発表、これはGHQ「改憲案」の手本となった。映画「日本の青空」（2007年）の主人公である。

2011年の地震による被害は、庭の石灯籠が崩れたくらいですんだが、原発から20km圏内のこの小高区は原発事故により避難区域指定となった。2016年7月に解除されたが、帰還者は少ない。

この建物は2018年、国の登録有形文化財に指定された。今は維持するため月一回はシルバー人材派遣を利用し清掃をしている。かつて通りに面して営んでいた薬局があったが、今は取り壊され駐車場になっている。その一角に保存の会が立てた看板が置かれていた。

中に通され、奥の座敷に腰を下ろし安蔵にまつわる話を伺った。1924頃建てられたもので築約100年になる。南相馬から生まれたといっても過言ではない現行憲法を守りたい、そしてその立役者であった安蔵の生家を残したいという志賀さんの強い思いが伝わってきた。

「近い将来、ここで憲法について話せる人にきてもらって、若い世代に憲法がどのように生まれたのか話してほしい」と願っておられた。地震、津波、そして原発事故を経験された志賀さんは「憲法はね、まだ10分の1も生かされてはいないんだよ」とおっしゃった。それは人びとの暮らしが今なお戻ってこない体験者からのことばだった。どうしても欲しくて手に入れたものなのに、使ってはじめてその良さがわかるはずなのに、封もあけずにしまい込み筆筒の肥やしにしている宝石のようなもの。まだ生かしきれていない憲法を決して政府の手に渡してはならないと、お話を伺いながら思った。

志賀さんの熱意と思いは、次世代を担う人たちに向けられている。どのような思いで受け渡すのか、今の憲法をどう生かすのかは私たち次第だ。

翌日、「いのちの光 3.15 フクシマ」の実行委員のメンバーのおひとり勝治美喜子かつやみきこさんの運転で、双葉町にある「東日本大震災・原子力災害伝承館」を案内していただく



左 志賀勝明さん：右 勝治美喜子さん



伝承館の外観

た。伝承館は 2020 年、国が総工費 53 億を負担して建設、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構が運営している。

国道 6 号線から海岸に向かって進むと整備された土地が開ける。地震、津波、原発事故の体験を伝え、これからの未来について考えようというコンセプトだそう。しかし立派すぎる建物、設備に違和感を覚えた。

津波の被害、そして人びとの様子を切り取った写真が壁一面に展示されていた。ご自身も被災者である勝冶さんはその写真を見ながら時折、パンフレットで眼を覆っておられた。あとで「当時のことを思い出して辛かった」とおっしゃっていた。



直接語り部の話を聴くコーナーも設けられ、迫りくる津波の様子、避難途中で亡くなった方のエピソードなど生の声をお聞きした。

展示室はいくつかに分けられ、原発のしくみ、模型や防護服などが置かれていた。また放射能汚染の状況や、福島県立医大の教授が「国からの財政支援を受け 2011 年 6 月から『県民の健康調査』を実施。18 歳以下の子ども、妊産婦、避難指示区域に住んでいた人たちを対象とした外部被ばく線量を評価する基本調査では、多くの県民の被ばくは決して高くない、健康に影響を与えるレベルではないと評価された」と話す動画も流されていた。こどもたちの内部被ばくの心配、甲状腺がんの発症率は事故前より事故後増えていると聞いていたので被害を過小評価しているようにも思える。また避難指示が解除したとはいえ、戻ってきた人たちが毎日浴びている線量は事故前より高いはずだ。「素晴らしい展示」を見ながら、真実が見えなくされてはいないだろうか。背筋が一瞬凍った。



伝承館の周辺はダンプが行きかい、ショベルカーが構縦横無尽に動き回っていた。構想の実現に向けて着々と計画は進んでいるように見える。

もちろん災害や原発事故が起きたことは紛れもない事実で、それを伝えるために残さなければならないものがある。しかし、犠牲を強いられている人々のくらしと、莫大な資金で建てられたこの箱モノとのギャップはあまりにも大きいのではないか。

そこに立たないとわからないことがある。

#### \*鈴木安蔵について

1904 年、クリスチャンの家庭に生まれた。1925 年、全国の大学や専門学校の社会科学連合会に所属していた安蔵を含む学生たちが、治安維持法第一号の適用を受け、逮捕された(学連事件)。これによって国家に疑問を持った安蔵は、憲法学や国家論の研究に向かうこととなった。1945 年、日本は敗戦。新憲法の制定に向けて多くの新憲法試案がつけられた。民間人 7 人が構成する憲法研究会は「憲法草案要綱」を発表、最終案を 3 つにまとめ清書したのがこの研究会の中心人物、安蔵であった。12 月 26 日に幣原喜重郎首相と首相官邸記者クラブ、GHQ に届けられた 3 案は、28 日の新聞 1 面に取り上げられ国民に知られることとなった。この案は GHQ の改憲案に最も影響を与え、現在の日本国憲法の骨子となったと言われる。その意味で安蔵は日本国憲法の「間接的起草者」と呼ばれる。

(参考:「鈴木安蔵を讃える会」発行 HP より)



# ボランティアさんに きいてみた

シナピスでは多くのボランティアさんが、お手伝いをしてくださっています!!  
これから数回にわたり、ボランティアさんの紹介や、奉仕活動の様子を掲載して  
いきます。

## 運転ボランティア

ベネディクト 大林 一郎さん  
(平野教会・在世フランススコ会所属)



### Q1. どのようにしてシナピスでボランティアを始めましたか？

始めたキッカケは、「シナピスニュース」のボランティア募集やったと思います。  
それを見て、運転ボランティアなら出来ると連絡しました。  
私の仕事はタクシーの整備なんで仕事柄、月に6～7日間ほど泊まり(宿直)があり、  
次の日が休みで朝4時～5時には帰れて、平日に時間があるんがお手伝い出来る強みかなあ。

### Q2. シナピスでは、どんなボランティアをしていますか？

主に自動車の運転ボランティアです。また、引っ越しを手伝ったりしています。  
引っ越しや買い替えなどで、まだ十分に使える一般家電から小型家具、他には衣  
類や日用品、採れたて野菜とかを買いに行ったり、それらを必要とする場所に届  
けたり。

基本は1人でいきますが、大物荷物や個数が多いときは、数人で伺ったり、自  
動車2台で行ったこともありました。壊れたブラウン管テレビを引き取って、バラ  
バラに分解して処分したりもします。もちろん薄型テレビも！よければ声をか  
けてください。



### Q3. ボランティアをしてみてどうですか？

私の手を必要とされる所にお手伝いが出来るなんて、願ったり叶ったり！  
嬉しいじゃないですかね。やはり人どうしの繋がりは嬉しいですね。ボランティア  
を始めてシナピスに行く機会が増えて、皆さんと顔見知りになったり、話が出る  
のは楽しいことです。

もし同胞が貧しく、自分で生計を立てることができないときは、寄留者ないし  
滞在者を助けるようにその人を助け、共に生活できるようにしなさい。  
(レビ記 25章 35節)

この精神でボランティア活動をしています。



# 4月の祈りの集い

## テーマ：子どもたちのために祈る

第19回シナピス主催オンライン祈りの集い～世界平和のために祈る～を4月13日(木)に行いました。サレジオ工業高等専門学校(通称サレジオ高専)チャプレン、サレジオ会の北川大介神父にお話と祈りの導きをして頂きました。

北川神父はサレジオ高専の学生支援センターで学業だけでなく、生活や家庭での困難に苦しんでいる多くの学生たちに接し、また以前教諭師としても多くの若者や子どもたちに接して来られました。環境は違えど、それぞれに困難を抱えていて、親も子も一生懸命に頑張っているのに歯車がかみ合っていない、どうやってその辛さを一緒に担えるのか、また、カウンセラーではないチャプレンという立場(宗教が担えること)で何ができるのかを考えていると語られました。

子どもたちとの関係づくりのヒントとしてサレジオ会の創設者であるドン・ボスコの教育法をいくつか紹介してくださいました。

まずは「子どもたちの声に耳を傾ける」ということ。私たちは人の話を聞いているようで実は聞いていないことがよくある。自分の手を止めて本当に相手の話を聞いているか、また話を聞いた後に、人はなにか勧めを与えたいくなる。

会話の最中も沈黙を埋めようとし、自分が歩んできた道を踏まえて心の中で相手の話を決めつけてしまう。中には自分の事を打ち明けることが苦手で、打ち明けて嫌われたらどうしようと不安になり、話せない子どももいる。子どもたちはどう感じているのか。話を聞いても相手に聞いていることが伝わらなければ心をひらいてくれない。



(※少年の告白を聞くドン・ボスコ)

ドン・ボスコが模範とした聖フランシスコ・サレジオは「司祭が祈っている最中に来客があれば祈りを中断して対応しなさい、それが愛です」と言い、聖バジリオは「修道院にどんなお客様が来てもイエスが来たと思いなさい」と教えたそうです。

次に親子の愛情表現「愛しているよ!」と伝えるということ。日本語では言い慣れない言葉かもしれませんが、重要なことは子どもに伝えたいものがあるという事を表現することとおっしゃり、多くの親子を見てきて、神に頼ればどうにかなると、確信をもって信じる事ができれば(もてれば、もつことができれば)親子の関係は変わっていくと列王記17章サレプタのやもめのたとえ話を用いて話してくださいました。最後に「神の国は幼子のような者たちのものだからである。あなた方によく言うておく。幼子のように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできない」(マルコ10章)というみ言葉を聞き、黙想をして終わりました。

それぞれが大切に思う人の顔を思い浮かべながら祈りを捧げることができる良い導きの集いとなりました。

※サレジオ会 HP より



次回は5月11日(木)20時半～  
テーマ:聖母マリアの取次ぎにより世界平和を祈る  
おはなし:松永敦神父

Zoom 参加↓↓↓  
ID: 761 071 2034  
パスコード:123456



## シナピスホーム便り

## 入管法改悪キャラバン&amp;デモに参加して

やまだ なおこ  
山田 直保子

4月15日、本来であればホームではカフェ開催の土曜日でしたが、お客様にも声をかけて、いつもお世話になっている弁護士さんを含む「入管法改悪に反対する近畿の弁護士有志の会」が主催する「入管法改悪反対キャラバン&デモ IN 近畿」に参加してきました。国連でも何度も是正勧告されている現入管法よりもさらに入管に権力を集中させてしまうような法案が、先週国会審議入りしてしまいました。

このままでは、GW明けには法案が通ってしまうのではないかと不安で、私にできる事はとにかく発信する事だ!と思い、このコーナーをお借りして投稿させていただきます。

カフェのお休みを告げた時に、常連さんの何名かが「それは参加する事が大事だ!」と参加表明してくださいました。おもてなしをしている難民移住者も参加したい気持ちは強かったのですが「写真が撮られたら入管に捕まる」「バレたら入管怒る」と不安がっていましたので「気持ちを連れていくから応援してね」と言いました。デモに参加する私の足を心配して、ぎりぎりまで行くか行かないか考えてくれた彼らには感謝しかありません。

当日はあいにくの雨模様でしたが、西梅田公園に200名もの有志が集まりました。全員、入管法改悪に反対している方々です。雨が降っていて断念した方もいて、晴天なら倍以上集まった事でしょう。弁護士達が熱く反対する気持ちをスピーチして、各支援団体(もちろんシナピスもビスカルドが吠えました!)や、議員の皆さまもスピーチしました。



14時半デモに出発。警察の誘導で中之島公園まで1.8キロの道のりです。短いようで長い道のり。普段短い距離ならしっかりと歩けるようになった私も雨に打たれながら冷えた足が途中でいう事を聞いてくれなくなりましたが、マンマー人のAさんが腕を貸してくれて何とか最終地まで歩くことが出来ました。歩きながら「入管法改悪反対(はんたい)」「送還より保護を(ほごを)」「難民を守れ(まもれ)」とコールしました。カッコの部分を中心に大きな声で叫び、通行人を振り向かせては訴えて歩きました。Aさんは私が大きく言うと、そのあとに小さくコールしていてとても癒され、力をもらいました。日本語を勉強中の彼にはコールが何を

言っているかわかりませんが、日本人が雨の中一体となって叫ぶ姿は「私たちのためにありがとう」と言ってくれた言葉で通じ合っていると思いました。御年80歳になる常連さんもしっかりとした足取りで歩いてくれました。民族衣装を着てアピールしてくれた常連さんも頑張ってくれました。

私たちの大事な仲間を強制送還できてしまう入管法改悪に強く反対します!

たくさんの人たちが一つの思いで動いた一日でした。私たち日本人はこれからも頑張ります。皆さんもどうぞ声をあげてくださいね。



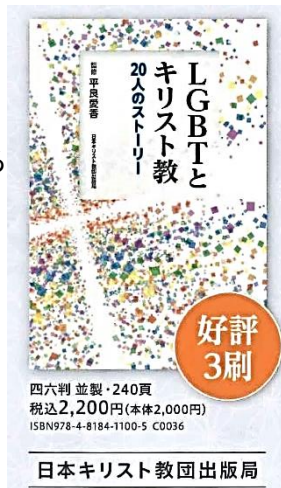
# みんなのけいじばん

## ◇書籍の紹介◇

**LGBTとキリスト教 20人のストーリー**  
監修 平良愛香

LGBT 当事者を中心とした 20 名の体験記。性的少数者の生きづらさ、社会や教会で確実に体现しつつある希望や実例を語りながら、性の多様性と可能性の豊かさを伝える。コラムでは、当事者や支援者による差別や偏見を解消するための取り組みを紹介。

購入問い合わせ：  
日本キリスト教団出版局  
定価2,200円  
(本体2,000円+税)



## ◇冊子の紹介◇

**「復興」と20ミリシーベルト**  
ともに暮らす家(=地球)を大切にするために

福島第一原発事故から10年余り。「復興」という目標の陰で見えなくされたものはないか、ほんとうの「復興」とはなにか、みんなで考えるきっかけになるために…(表紙より)



問い合わせ・注文：  
日本カトリック正義と  
平和協議会 事務局

〒135-8585  
東京都江東区潮見 2-10-10  
TEL: 06-5632-4444  
FAX: 03-5632-7920

※注文は5部単位、1部20円の製作費とカンパ、送料のご負担をお願いします

## ◇ピース9の会よりご案内◇



ピース9の会は2002年5月に始まりました。憲法9条をめぐる状況は20年前より、厳しくなっています。今こそ、ピース9の会につながりませんか。グループを作ることが難しい方も、お一人で登録できます。資料(案内書、ピース9ニュースレターなど)をお送りします。今回同封するプラカードも合わせてご利用ください。※プラカードはお一人5枚まで無料でお送りいたします。

問い合わせ：ピース9の会事務局  
TEL: 03-5632-4444 FAX: 03-5632-7920  
E-mail: p9@cbcj.catholic.jp

## ◇署名のお願い◇

**「大阪府立生野聴覚支援学校児童事故の  
障害者差別のない公正な判決を求める要請署名」**

私は、大阪聴力障害者協会の大阪府立生野聴覚支援学校児童事故の障害者差別のない公正な判決を求める要請署名の活動をしています。読者のみなさん、同封の署名を書いてください。お願いします！

カトリック聴力障害者・関目教会 小野隆久

※署名用紙を同封しています。5月25日迄に集約先まで！詳細は署名用紙をご覧ください。



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。  
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ 平和を目指してともに歩もう

# シナピスの風

\*掲載行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。 第158号 2023年5月1日発行

## 5月の祈り

みことばに導かれて平和を祈る

「主は国々の争いを裁き、  
多くの民を戒められる。  
彼らは剣を打ち直して鋤とし、  
槍を打ち直して鎌とする。  
国は国に向かって剣を上げず、  
もはや戦うことを学ばない」(イザヤ2・4)



「どこかの家に入ったら、まず、  
『この家に平和』と言いなさい」(ルカ10・5)

「わたしたちは、神の約束によって、  
義の宿る新しい天と新しい地を  
待ち望んでいます」(ペトロII3・13)

慈しみ深い天の父よ、  
平和を保つための法的な枠組みを  
みことばに導かれて守りたいのです。  
わたしたちの努力を祝福してください。  
主キリストによって。アーメン。

シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともに  
お送りしております。教会で、ご家庭で、日々のお祈り  
にお使いください。シナピスのホームページからも、  
ダウンロードしていただけます。

## シナピス工房 カタログ

2023年版 Vol.1

初聖体や母の日のプレゼントにいかがですか。  
カードや日曜雑貨、ロザリオなど取り揃えていま  
す。シナピスまでご連絡ください！



シナピスでは 移住者やボランティアの方々ともに  
にロザリオやカード、雑貨などをつくり皆さまにご提供  
させていただいています。ご寄付は難民移住移動者の生  
活支援に役立てられます。どうぞ、ご協力をお願いいた  
します。

## シナピス公式

Instagram・LINE ができました！

さまざまなお知らせや情報を発信！  
友達追加は QR コードから



## 支援のお願い

おかげさまでパスタ、体温計は沢山のご寄付をいただきました。  
日持ちのする食品、油、米、テレホンカード、  
そしてレトルトのご飯などのご支援をお願いいたします。



## 「子どもの権利を知る」キャンペーン企画



◇映画鑑賞とお話◇

映画:「さとにきたらええやん」  
お話:「こどもの里」館長 杜保共子さん  
～子どもは安心して生きる権利があります～

日時: 5月7日(日) 13時~15時半  
場所: カトリックなみはや教会(駐車場有)  
※入場無料 ※マスクの着用をお願いします

主催: カトリックなみはや教会評議会  
後援: シナピス子ども基金  
問合せ: 06-6551-6253



\*シナピス子ども基金 キャンペーンとは  
1月29日「世界子ども助け合いの日」~  
5月5日まで>キャンペーン期間中、子ども基金  
の趣旨に合ったイベントを開催する方がたにこ  
ども基金から助成金を出します。  
ご応募ください。

## オンライン祈りの集い ~世界平和のために祈る~

テーマ: 「聖母マリアの取次ぎにより  
世界平和を祈る」

お話: 松永敦神父



5月11日(木)  
20時半~(30分)

Zoom ID&パスコード(100名まで参加可)  
ミーティングID: 761 071 2034  
パスコード: 123456



## タリタクム日本 春のオンライン・セミナー

日本人とフィリピン人の親をもつ子ども  
(JFC) とその母親への人身取引

講演:

「JFC が抱える困難と人身取引」  
伊藤里枝子さん  
(NPO 法人 JFC ネットワーク事務局長)

「カトリック内のネットワークによる  
『岐阜事件』への取り組み」

ビスカルド篤子さん  
(カトリック大阪大司教区  
社会活動センター・シナピス)

開催日: 5月13日(土) 14時~16時  
英語通訳付

問い合わせ:  
日本カトリック難民移住移動者委員会

申し込みは▶▶QRコードから



カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス  
Tel 06-6942-1784 Fax 06-6920-2203  
URL: <https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

「点訳版」「音訳」  
ご希望の方はシナピスまで  
お申込み下さい。

## PCの修理をいたします！！

不具合を起こして故障したままのパソコンはありませんか。まだ使えるかもしれません！ご相談ください。シナピスまで



### 活動へのご支援ご協力

よろしくお願ひいたします。

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス



難民移住移動者支援もよろしくお願ひいたします。

### 支援物資提供のお願い

米、ハラル食品、レトルト食品  
テレフォンカード、レトルトご飯、缶詰、油



お電話をお待ちしています！！

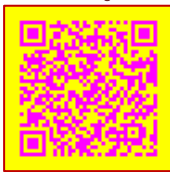
☎06-6942-1784



### シナピス公式

さまざまなお知らせや情報を発信！

友達追加は QRコードから



HPはこちらから

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

ニュースレター配布停止ご希望の方は  
シナピスまでお知らせください。

あとがき

相変わらず選挙の投票率が低い。「憲法は10分の1も生かされていない」とはこういうことか。

先日、Oさんが「協力をお願いしたい」と署名を持って来られた。大阪の聴覚障害支援学校で児童が工事中の重機にはねられなくなった事件で裁判官が、「将来的に障がい者は収入が少ない、だからそれに見合った額の損害賠償を」と加害者へ支払いを命じたことに対するもの。(同封)何が法の下での平等か。司法が差別をするのか。

入管法「改正」案が審議されているが、これは国を追われ逃げてきた難民移住者への「排除法」だ。

4月27日、国連人権理事会の専門家らは、国際人権基準を満たしていないとして日本政府に対して見直しを勧告した。世界の眼はこの事実を見逃しはしない。

一方教会では「ともに歩むこと、ともに生きること」を実現しようと動き始めている。憲法で言うところの基本的な人権の尊重だろうか。教会という狭い世界の中で「流行語」となっている何か消えていくことがないようにしっかりと「生かす」努力をしたい。(H)

## ▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

### ◆広報活動

- ・ 教皇メッセージ、司教団メッセージ等 社会活動の指針の伝達
- ・ 読者と教会内外の社会活動をつなぐ 機関誌としてシナピスニュースを発行

### ◆大阪教区・社会活動委員会との連携

### ◆学習会研修会の企画

### ◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

### ◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

### ◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

### ◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

### アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



### ●公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m

### ●車でお越しの場合

阪神高速 13 号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

### 活動へのご支援ご協力をおねがいします

☐ 郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

☐ 三井住友銀行 玉造支店 普通 9401958

カトリック大阪大司教区 シナピス

代表役員 前田万葉

☐ オンラインはこちら →→→

